



THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION NEWS



YMCA

月刊 The YMCA 付録
 編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地
 大阪青年 発行: 末岡祥弘 編集: 大阪 YMCA 広報室
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
 TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
 URL: http://www.osakaymca.or.jp/
 (年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

大阪青年

2008 Oct. 10

No. 610

2008年度 年間聖句

「めいめい自分のことだけでなく、
 他人のことにも注意を払いなさい。」
 (フィリピの信徒への手紙 2章4節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代のひととが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界のひとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。



ユースボランティアリーダー海外派遣 (台北YMCAキャンプにて)

「世界と地球を見つめ、 考え、行動すること」

副総主事

田中眞一
たなかしんいち

7月に北海道洞爺湖でサミットが開かれました。気候変動と環境、世界経済とエネルギー、食の安全保障、開発とアフリカなどが主要テーマとされ、テレビ、新聞などのメディアもサミットの期間に合わせて、これらのテーマに関連する番組、記事が制作し、私たちに「地球が危ない」とメッセージを送りました。今回のサミットの成果への評価はさまざまですが、私たちの日々の生活を取り巻くもの、食べ物、生活用品、空気、エネルギー、天候など多くのことが、地球上の他の地域の変化と密接に関連していることを改めて思い知らされました。

薄くなってしまっています。私たちは「世界の人々との関係性」の中で生かされており、全員が等しい権利を持っていることを忘れがちです。

YMCAは世界に広がるネットワークを生かし、人と人が出会うプログラムを、あらゆる世代に提供してきました。小学生のサッカー交流、中学生のバスケットボール交流、高校生の海外研修、聴覚障がい青少年の国際キャンプ、ユースボランティアによるスリランカの子どもたちへの支援キャンプ、ミャンマーの女性自立のための支援事業とスタディツアー、シニアのためのハワイツアーなど、顔の見える交流、協力を実施してきました。

また、地域においては留学生と協働し、災害救援のための街頭募金活動やYMCAフェスティバルを展開しています。

世界で起こっていることが私たちの生活や地球とどのようにつながっているのか。人々が何を悩み苦しんでいるのか、喜びとしているのか。私たちの想像力と共感力が問われます。YMCAは世界の人々との出会いと協働作業のなかで、共生能力(一緒に生きていくための力)を育んでいきたいと願っています。

大阪YMCA国際事業ガイドライン

大阪YMCA国際事業の目指すもの
 「私たちは、世界の人々との交わりの中で、
 学び、働き、共に生きる文化を創ります。」

大阪YMCA国際事業の活動の指針

私たちはYMCAの国際プログラムをとおして

- ・ 違いを尊重する心を育みます
- ・ 地球市民としての責任を自覚します
- ・ 地球社会で働くリーダーシップを育みます
- ・ 平和を求める心を伝えます

2007年5月23日 常議員会策定

地の塩

▼最近「ジャパン・パッシング」という言葉をよく耳にする。正確には「バイ・パッシング」の意味だろうが、世界のモノ、カネ、そしてヒトの関心が日本を素通りしてお隣の中国などのアジアの新興国に移っていることを指す▼試みに世界のモノ(物流)の流れでも、世界の港湾の取扱いはトランプでも、もはや日本の港はトップ30に入らず圏外。今年北京オリンピックもあつたので、世界の関心が中国に向かうのはやむをえないかもしれない。しかし、かつての経済大国日本の影は薄くなる一方である▼世界の各国の国債の信用度を表す指標も先進国の中では日本は最低に落ち込んだまま。日本人の一人当たりの国内総生産(GDP)はずっとアジアで一位であつたが、最近、シンガポールに抜かれた。これはアジアで最も豊かな国は日本ではなくなつたことを意味する▼日本の政府開発援助(ODA)の額は1997年には世界一の規模であつたが、2006年には3位に転落した。少子高齢化の影響もあつてか、青年海外協力隊への若者の応募者が減少して関係者を悩ましている。これは、日本の将来を担う若者が内省化しているからかもしれない。一方、日本に留学し、日本で就職するアジア系の人々は急増している▼このような日本を取り巻く大きな環境変化を日本のYMCAはどう捉え、将来の人口減少にどう対処するのか、真剣に検討することが求められているのではないだろうか。(寛)